

報道機関各位

公益財団法人東北活性化研究センター
 「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 29 年 2 月東北分
 (新潟を含む東北 7 県)」について

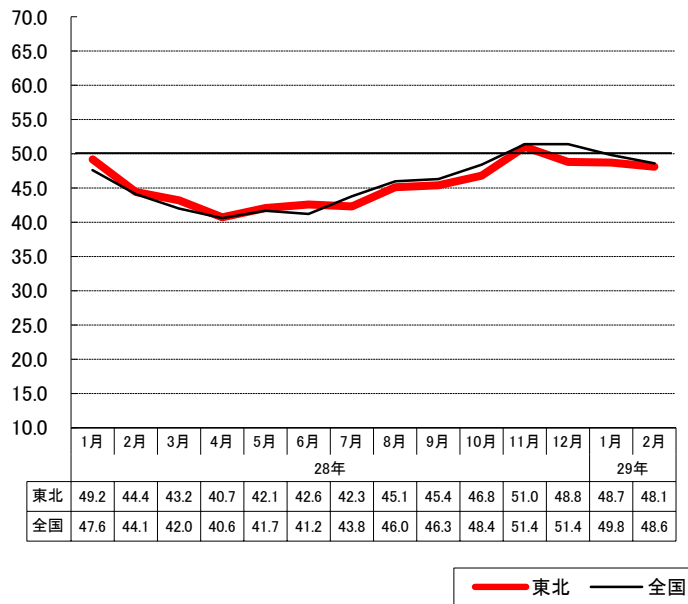
公益財団法人東北活性化研究センター（会長：海輪 誠・東北電力(株)取締役会長）は、このほど「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 29 年 2 月東北分（新潟を含む東北 7 県）」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 季節調整値

(1) 現状判断（3か月前との比較、方向性 季節調整値）

現状判断 DI は「48. 1」と3か月連続で前月を下回った。前月と比較し▲0.6 ポイントとわずかに下回った。

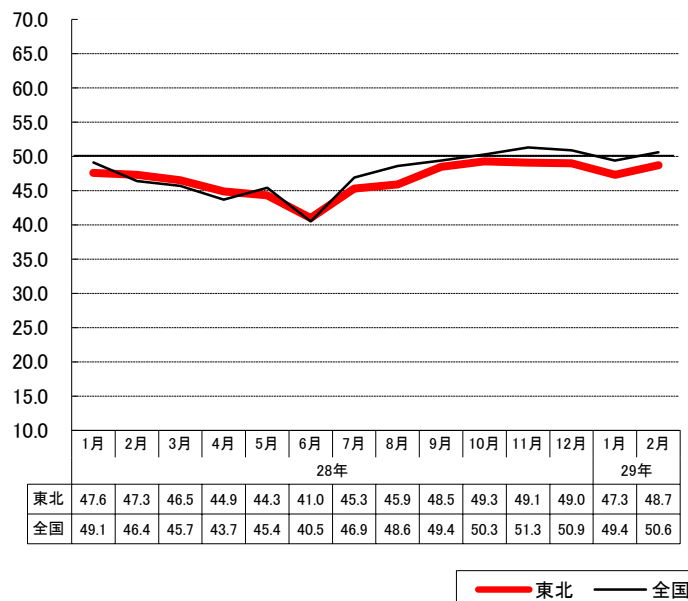
現状判断DIの推移



(2) 先行き判断（2～3か月先の見通し、方向性 季節調整値）

先行き判断 DI は「48. 7」と4か月ぶりに前月を上回った。前月と比較し+1.4 ポイントとやや上回った。

先行き判断DIの推移

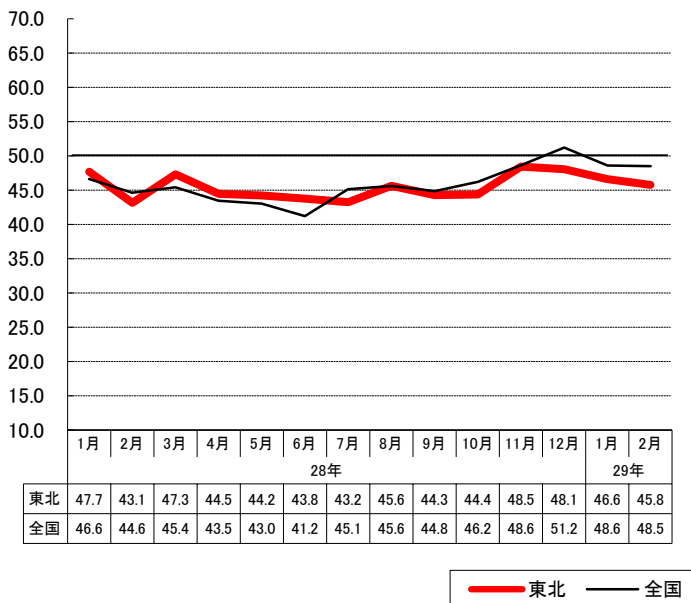


2. 原数値

(1) 現状判断 (3か月前との比較、方向性)

現状判断DIは「45.8」と3か月連続で前月を下回った。前月と比較し▲0.8ポイントとわずか下回り、19か月連続で景気判断の基準となる50を下回った。

現状判断DIの推移



・家計動向…一般小売店、住関連専門店、住宅販売会社等でDIが前月を上回ったが、高級レストラン、商店街代表者、一般レストラン等の業種でDIが前月を下回った。DIは「44.4」(▲1.6)と3か月連続で前月を下回り、基準値50を21か月連続で下回った。

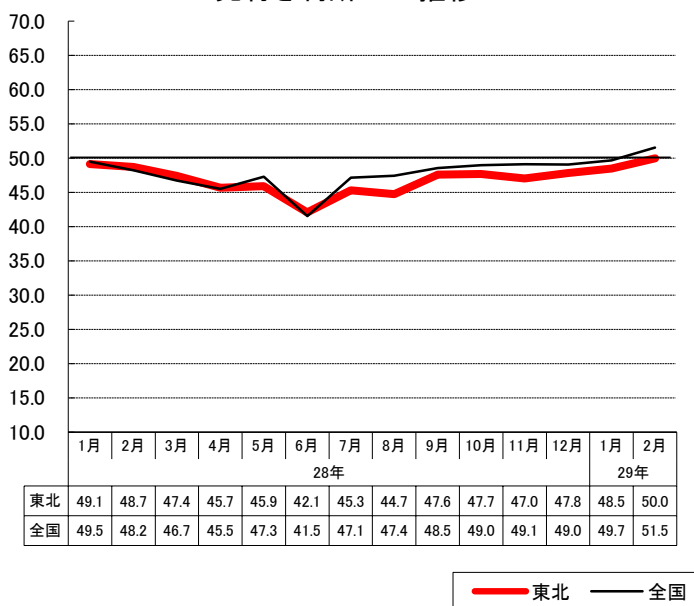
・企業動向…広告代理店、その他企業動向を把握する者等でDIが前月を上回ったが、出版・印刷・同関連産業、農林水産業従事者等の業種でDIが前月を下回った。DIは「46.2」(▲0.1)と2か月連続で前月を下回り、基準値50を11か月連続で下回った。

・雇用動向…DIは「53.4」(+2.3)と2か月ぶりに前月を上回り、基準値50を5か月連続で上回った。

(2) 先行き判断 (2~3か月先の見通し、方向性)

先行き判断DIは「50.0」と3か月連続で前月を上回った。前月と比較し+1.5ポイントとやや上回り、20か月ぶりに景気判断の基準となる50を上回った。

先行き判断DIの推移



・家計動向…観光型ホテル、高級レストラン、住関連専門店等の業種でDIが前月を下回ったが、スーパー、衣料品専門店、住宅販売会社等の業種でDIが前月を上回った。DIは「49.2」(+1.8)と3か月連続で前月を上回ったが、基準値50を20か月連続で下回った。

・企業動向…金融業、広告代理店、輸送業等の業種でDIが前月を上回ったが、それ以外の業種では前月からDIが横ばいもしくは下回った。DIは「50.0」(▲0.6)と3か月ぶりに前月を下回ったが、基準値50を2か月連続で上回った。

・雇用動向…DIは「54.5」(+3.4)と、2か月ぶりに前月を上回り、5か月連続で基準値50を上回った。

<参 考>

■D Iの推移（原数値）

（1）現状判断（方向性）D I

	28年												29年	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
東北現状	47.7	43.1	47.3	44.5	44.2	43.8	43.2	45.6	44.3	44.4	48.5	48.1	46.6	45.8
家計動向関連	47.3	41.7	46.6	42.5	42.4	43.2	42.2	44.4	43.3	43.7	47.4	46.6	46.0	44.4
企業動向関連	47.0	46.2	50.0	46.9	46.7	42.5	43.6	48.0	47.5	42.5	48.7	49.4	46.3	46.2
雇用関連(参考)	51.1	46.6	46.4	52.5	51.3	50.0	48.9	48.9	44.3	52.3	54.5	54.8	51.1	53.4

（2）先行き判断D I

	28年												29年	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
東北先行き	49.1	48.7	47.4	45.7	45.9	42.1	45.3	44.7	47.6	47.7	47.0	47.8	48.5	50.0
家計動向関連	48.8	49.1	46.5	44.8	44.7	43.6	45.0	42.6	47.4	47.0	46.1	47.0	47.4	49.2
企業動向関連	49.4	44.9	50.0	46.9	48.0	36.3	44.2	48.7	47.5	48.8	46.7	47.5	50.6	50.0
雇用関連(参考)	51.1	53.4	48.8	48.8	50.0	43.8	48.9	51.1	48.9	50.0	53.4	53.6	51.1	54.5

※D I（Diffusion Index）について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成 29 年 2 月 25 日～28 日

回答者数 190/210 名、回答率 90.5%(全国 1,866/2,050 名、91.0%)

以 上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター（担当：萱場 喜樹）

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-225-1426 FAX : 022-225-0082

<別 紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「やや良くなっている」

（ショッピングセンター）…比較的衣料品の動きが良く、単価も上がってきている。

（観光名所）…2月上旬に開催したイベントは、天候要因により前年に引き続いて縮小開催となったが、今年は前年と比べて来客数が多い。

（自動車整備業）…例年であれば2月は売上や来客数が減少する時期であるが、前年比は微増している。

（電気機械器具製造業）…顧客の新製品開発が加速している感がある。加えて、それを確実にする実験製品開発にも積極感がある。

（広告代理店）…年度末に向けて発注量が増えてきている。さらに、来年度のコンペ案件も前年より増えている。

（人材派遣会社）…求人数の増加に伴い、求職者の登録数も増加傾向にある。引き続き半導体関連や自動車関連メーカーが堅調のため、これらの募集が増加している傾向にある。

○「変わらない」

（医薬品販売店）…来客数はやや落ち込んでいるものの、客単価が改善しており、売上全体としては横ばいとなっている。また、客の行動からも厳しい節約をしている様子は見受けられない。

（百貨店）…春に向けてのアイテム、節句人形などはほぼ前年並みで推移している。ただし、今月は祝祭日の営業が一日減少しており、その分はマイナスとなっている。

（コンビニ）…節分を過ぎてから少し低迷していたが、日米首脳会談が成功してから、消費性向がやや明るくなったように見受けられる。また、客は買うものは買うという傾向にあり、景気が少し良くなっているという状況に変化はない。

（衣料品専門店）…2月の売上は前年並みに推移しているが、フレッシュアズ向けが前倒しで動いているだけであり、一般向けは前年を下回っている。

（家電量販店）…来客数の減少などもあり、身の回りで景気が回復している実感がない。

（乗用車販売店）…他社との競合が激しく、少ない見込み客の取り合いとなっている。そのため、厳しい条件の商談が多い。

（観光型ホテル）…秋口以降は、年末年始を含めて低迷が続いている。

（旅行代理店）…海外旅行は、燃油サーチャージ、米国の新大統領の就任による円安傾向の影響もあり、受注状況はかならずしも良いとはいえない。また、国内旅行も直前での取消など、他社への申込やインターネットでの申込に流れているとみられる客も多い。そのため、全体的な傾向に変化はない。

（通信会社）…新規の契約者数に変化はないものの、節約志向からか低価格コースへの加入が増えている。一方で解約件数は減少している。外での消費を減らし、家のなかで楽しめる事にお金を使う人が増えてきている。

（住宅販売会社）…住宅受注は順調であるが、一般物件の受注がない。

（建設業）…手持ち工事の繁忙度の高い状態が続いている。

（金融業）…企業の資金ニーズは横ばいのままである。個人は米国の状況を様子見している。

（職業安定所）…有効求人倍率は依然として高水準で推移しているものの、新規求人数は前年同月比で増減を繰り返すなど大幅な増加はみられず、景況感に大きな変化はない。

○「やや悪くなっている」

（商店街）…食料品などの生活必需品の消費は横ばいであるものの、衣料品や高級品の個人消費は低迷している。

（スーパー）…当店は日本海の近くであり、前月同様に今月も平日を中心に暴風雪が多かった。そのため、客足に大きな影響が表れており、来客数は前年を下回っている。

(酒類専門店) …月前半は寒波の影響もあって、特に飲食店への販売量が落ち込んでおり、なかには人が動くのは週末のみで平日は来客が1人もいなかった店もあった。また月後半もずらずるとその状況を引きずる形となっている。ある程度予想して仕入を抑えていたものの、想像以上に厳しい月となっている。

(高級レストラン) …客も非常に苦戦をしている様子であり、景気の良い話を聞かない。同業者もあまり良くないのか、中央市場で仕入をしていても高級なマグロなどは売れていない。おそらく寿司屋なども厳しいのではないかと。経済政策が地方に全く波及していない。

(都市型ホテル) …宿泊、宴会、レストラン部門共に、来客数の減少がみられている。特にレストランは、個室での少人数の接待会食などの減少が響いている。

(美容室) …寒くなるとどうしても客足が遠のいてしまい、来店の間隔が空いてしまう。

(農林水産業) …水田農業の担い手不足により、地域の離農者の水田が我が家に集まってきている状況であり、負担増になってきている。

(繊維工業) …毎月のことであるが、店頭の売上が悪い。特にデパートの衣料品の売上が悪い。

(出版・印刷・同関連産業) …価格競争に入っており、受注量が落ち込んでいる。

(経営コンサルタント) …食品製造業3社が、続けて倒産、自己破産をしている。いずれも取引先の経営不振による連鎖倒産であり、業界全体に停滞感が漂っている。

(新聞社[求人広告]) …求人数の動きをみる限り、業種にもよるが人手不足が続いている。やっと被災地復興の手ごたえが芽生えはじめた矢先の人手不足と人口減少である。オリンピック景気の高まりにより、首都圏に労働力が流出してしまう状況に歯止めがかからない。

○「悪くなっている」

(一般レストラン) …今後は大丈夫なのかというくらい、販売量、来客数、他社の話すべてにおいて悪く、特に月初は非常に悪かった。ただし、給料日を過ぎてからはある程度は良くなってきているが、全体的にみれば決して良いという状況ではない。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

(コンビニ) …日米首脳会談の成功により、とりあえずの不安は払しょくされている。原油価格も安定状態であり、消費者の心理状態にもそれほど不安な様子はない。この先気候が暖かくなれば、景気は少しずつ良くなっていくとみている。

(衣料品専門店) …入学、卒業のような、天候に左右されにくいハレの日需要が前年よりも増えているなか、品質、デザイン重視で購入する客が増加しつつある。

(観光名所) …インバウンドが来客数や売上をけん引しているが、つられて買物をする日本人の客も多くなっている。この先もインバウンド客の予約状況は好調であり、同じように日本人客の売上も伸びていく傾向があるため、景気は良くなっていくとみている。

(住宅販売会社) …低迷していた一般物件であるが、大規模な賃貸集合住宅物件の受注見通しが立っている。

(金融業) …個人消費に関しては、自動車販売が好調に推移している。その他一部指標で弱さはみられるものの、持ち直し傾向が継続している。

(人材派遣会社) …各社共に来期の採用計画が固まってきているが、現状維持もしくは増加で計画している企業が多い様子である。

○「変わらない」

(書店) …情報伝達におけるメディアの使われ方が変わってきており、SNSやホームページが主体になってきている。また、購買の手法も変わってきており、リアルな商材が店舗からなくても、物が動く時代になっていることから、ますます景気の動向が計れなくなっている。

(百貨店) …客から新生活に向けた買物の話を聞くが、あまり意欲的な話を聞かない。また、春物商材についても、あまりお金をかけたくない様子である。ただし、美容と食などにはかなり関心があるようで、自分には多少なりとも投資をするという状況であるが、全体的な景気はあまり変わらずに推移するのではないか。

(スーパー) …競争激化による来客数の減少は今後も続く見込みである。既存店ベースでは販促策を強化することで1人当たりの買上点数を増やし、前期実績を確保するしかない。スーパーマーケットで業容拡大をするためには、出店エリアの拡大と出店のスピードアップ、既存店のリニューアルによる活性化しかない。

(ショッピングセンター) …景気が良くなる兆しはあるものの、衣料品不況による駅前の地元百貨店の倒産など、まだまだ不透明感がある。

(一般レストラン) …今後の見通しとしては、あまり大きな変化はない。全体的に個人消費が縮んでいく状態が続いている。同業者の話聞いても、なかなか期待が持てない苦しい状態が続くという意見が多く、閉塞感が強まっている。

(都市型ホテル) …フリー客の減少が続いていたが、徐々に回復傾向がみられている。ただし、マイナス分が戻ってきているだけであり、上向きとまではいえない。予約受注の改善も期待していたが特段伸びがなく、非常に停滞感が漂っている。このような状態は、この先数か月は続くのではないかとみている。

(旅行代理店) …海外の世情不安が継続している。また、プレミアムフライデーなどの施策も始まっているが、十分な周知が行われておらず、数か月先の景気は変わらないとみている。

(食料品製造業) …消費の二極化傾向が続くなかで、節約志向が徐々に強まるものの、消費全体の下振れリスクは大きくないとみている。

(一般機械器具製造業) …国内の受注量に大きな変化はないが、為替の変動により輸出採算が予測しづらい状況になっている。

(広告代理店) …4月以降の受発注にスピード感がないため、前年並みで推移すると見込んでいる。

(公認会計士) …2～3月は公共事業などの受注完成納期であり、売上などが回復するとみていたが、さほど大きな動きはない。数か月先も一定の水準を維持するものの、大きな変動はないとみている。

(金属工業協同組合) …半導体関連、医療などの受注量は高いが、一般加工分野は低く、低単価、短納期の原価管理や人の手配などの対応に苦慮している。

(職業安定所) …建設関係、医療福祉関係を中心に、新規求人数は引き続き前年同期を上回ると見込まれる。ただし、これらの職種を希望する求職者が少ないため、採用が難しいという状況が継続するとみている。

○「やや悪くなる」

(出版・印刷・同関連産業) …復興需要が一段落し、受注状況も前年を10%ほど下回っている。この先もあまり期待できないため、景気はやや悪くなるのではないかとみている。

(窯業・土石製品製造業) …震災復興需要が減少してきている。また、域内における大型プロジェクトがない。

(新聞社[求人広告]) …国の復興予算の縮小に伴い、被災地企業の自立が求められている時期ということもあり、ますます地域間格差は広がり、大きな障害となっている。このままでは不況感が急激に増してしまうのではないかとみている。駅前の地元百貨店の倒産もあり、このようなことが引き金となって危機感が増すことを懸念している。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以上